資料２

岡山県立図書館第４次中期サービス目標
目標達成度評価シート＜令和７年度＞

＜５つの基本的性格＞

（１）県民に開かれた図書館

基本指標		令和７年度実績
来館者数	平成２８～令和元年度実績平均：９９８，１９０人	７８６，７４２人
個人貸出冊数	平成２８～令和元年度実績平均：１，４１８，７４９冊	１，０８２，５５８冊
登録者数	令和元年度末累計：２７９，７３４人	累計　３２１，３６６人
登録率（人口１００人当たり）	令和元年度末：１４．６人	１７．４人
来館者アンケート利用者満足度	令和元年度：９４．４％	９４．４％

○資料・情報の提供

サービス目標と具体的取組	成果と課題
①来館者サービスの向上 豊富な蔵書を基盤に、企画展示、レファレンスサービス、講座等を行い、来館者と資料を結ぶ積極的働きかけを行います。案内表示、サイン、検索端末の利用環境等の整備を進めるとともに、施設・設備の点検、修理を計画的に行い、安心かつ快適な環境で利用できるよう努めます。引き続きキャンペーン等を通して利用者の自発的なマナー向上を働きかけます。	**[主な成果]** ・県庁各課との連携展示や、通路でのパネル展示、各部門での企画展示を行い、展示に合わせて関連図書の紹介やブックリストの配付を行った。 ・館内照明のＬＥＤ化とともに、故障していたトイレ手洗いの取り替えなど環境整備に努めた。 ・県立学校と連携して作成したマナー向上に関するポスターなどの啓発作品を使用して、マナーアップキャンペーンに取り組んだ。 ・有料貸出施設について、予約が入っていない平日の夕方を中・高校生の自習室として開放した。また、学校の夏季休業中（8/10～17）、冬季休業中（12/24～28、1/4～7）は終日開放した。 ・Wi-Fi使用可能エリアを拡大した。（多目的ホール、サークル活動室） ・2F閲覧室の一画でBGMを流し、新たな環境づくりを行った。 **[課題]** ・より多くの県民が来館し、快適に利用できるよう、計画的な施設・設備の修繕や老朽化した機器の更新など、利用環境の改善を図る必要がある。
②ユニバーサルデザインの視点に立ったサービス 誰にでも使いやすいように蔵書検索システムの機能の充実を図ります。またウェブアクセシビリティ規格に配慮し、ウェブコンテンツの更なる改善を進めます。 障害のある方の読書環境の整備を目指した「読書バリアフリー法」の理念を踏まえ、対面朗読のオンライン化について検討します。また、障害者サービス等において県内公共図書館や関係機関との連携の一層の強化を進	**[主な成果]** ・新たに公開した、オカリブサーチとデジタル岡山大百科では、直感的で誰でも使いやすい画面構成を意識したシステムを構築した。 ・音声読み上げを利用した際に、目的のページへたどり着きやすくするためにホームページの構成を一部変更した。 ・「岡山県読書バリアフリー計画（第一期）」を踏まえ、全県的なサービス展開を目指し、県内の関係機関と情報交換を行った。また、同計画が最終年度となることから第二期計画策定に向けて、関係部署と協議を行った。 ・当館所蔵資料に加え、録音図書などを提供するネットワーク

め、全県的に効果的なサービス展開を図ります。 　多文化サービスについては、利用者ニーズの把握に努め、利用を促進します。	「サピエ図書館」を活用した資料提供を行った。 ・オンラインでの対面朗読サービスを継続実施した。 ・子ども向けのバリアフリー資料を集めた「りんごの棚」を児童資料コーナーに設置した。 ・教員が見学の下見に来館した機会等を活用し、障害者サービスや当館の利用方法の周知に努めた。 ・通常のおはなし会に加え、おはなしまつりなど読み聞かせや工作、手遊び等を行ない、読書に親しむきっかけを提供したり、「英語でおはなし会」、「世界のことばで Let’s Read! －英語・中国語・韓国語であそぼう！」を実施し、子どもたちが多言語資料や多様な文化に触れるきっかけを提供した。 **[課題]** ・デジタル技術の導入など、誰にでも使いやすい利用環境の改善とともに、各種サービスを有効に活用できるよう周知に努める。 ・「Books on Japan」のコーナーを設置しているが、関係機関と連携の強化、多文化サービスを必要とする層の具体的ニーズの把握、必要としている人への情報を届ける方法の検討が必要である。 ・りんごの棚を、特別な支援を必要とする子どもだけでなく、すべての子どもが本と出会える場として位置づけ、資料の充実と周知を図る必要がある。あわせて、特別支援学校や関係機関との連携を進め、読書環境の充実につなげていく必要がある。
③非来館型サービスの向上 　全県域へのサービス提供の拡大のため、引き続き県内公共図書館等の協力を得ながら、各館での岡山県立図書館利用者登録、インターネット予約サービスや資料相互返却サービスを推進します。音楽配信サービスやオンラインレファレンス等の非来館サービスの利便性を周知します。 　外部環境の大きな変化や利用者ニーズを踏まえ、返却ポストの増設や郵送による資料の貸出サービスの拡充、電子書籍の導入を検討します。	**[主な成果]** ・インターネット予約の利便性が浸透し、１９３，６２１件（Ｒ６：２１３,０９７件）と高い水準であった。当館資料のインターネット予約の他館受渡冊数は、６９，８６９件（Ｒ６：７６，１２１件）と減少傾向ではあるが、非来館者の利便性向上に寄与している。 ・県内公共図書館の協力を得て、現在２７市町村の５９施設で当館の利用者登録の受付けが可能となっている。 **[課題]** ・電子書籍など、デジタル技術を活用した非来館サービスについて、さらに検討を進める必要がある。
【指標】インターネット予約貸出比率：毎年度個人貸出冊数の１５％以上	**【指標】インターネット予約貸出比率：１７．９％** **（Ｒ６：１８．６％）**

○県民参加による図書館づくり

サービス目標と具体的取組	成果と課題
④公聴広報活動の推進 　公聴活動については、既存の取組のほか、未利用者や非来館者の意見聴取の方法を検討します。広報活動については、報道機関への積極的な情報提供など既存の取組を徹底していくほか、ＳＮＳを活用して、時宜を得た広報や、県内公共図書館、岡山カルチャーゾーン構成施設等の行事に合わせて利用案内など	**[主な成果]** ・カルチャーゾーン施設や県立記録資料館、県内美術館等と連携した展示や体験講座を行った。 ・カルチャーゾーン施設のイベントに合わせたブックリストの提供を行い、お互いの利用促進を図った。 ・ＳＮＳ（X、Instagram）を活用し、イベントや展示に関する案内や、県内の図書館の紹介などの情報発信を行った。 ・ＳＮＳ用の当館紹介ショート動画を作成した。 ・ノートルダム清心女子大学情報デザイン学部との協力企画を実

を行い、利用拡大を図ります。なお、有料貸出施設について、県民の生涯学習活動に活用してもらえるよう、広報による利用拡大を図ります。	施し、若者の利用促進に向けたアンケート調査とともに、それをもとにした広報等の改善研究活動を行った。 ・来館者アンケート、Webアンケートを行い、未利用者を含む当館利用についての意見の把握に努めた。 ・館内に設置した「提案箱」に寄せられた利用者の意見等を運営に活かした。 ・おかやま文学フェスティバルのイベントに参加および関連事業を実施し、当館のＰＲを行った。 [課題] ・図書館未利用者など新たな層を獲得するため、ＳＮＳ等を活用し、動画や音声を織り交ぜたわかりやすい情報発信を行う必要がある。 ・未利用者や非来館者の意見聴取方法のさらなる研究が必要である。
【指標】Ｘ（旧ツイッター）のフォロワー数を最終年度に３，０００人にする。	**【指標】Ｘ（旧ツイッター）フォロワー数：３，２９１人** **（Ｒ６：３，１００人）**
⑤図書館の魅力を伝えるイベントの開催 岡山県立図書館の魅力を伝える「県立図書館フェスタ」や、「県立図書館とことん活用講座」など時節に応じた多彩な催し、資料・情報の提供につながるイベントを、様々な主体とも連携しながら実施します。	[主な成果] ・「県立図書館フェスタ」や、主題別６部門ごとに企画する「とことん活用講座」等主催事業のほか、関係機関と連携した公開講座を実施し、全体的に満足度が高いというアンケート結果であった。 ・県立高等学校との連携によるファミリーコンサートを開催した。 ・令和7年5月31日に開館からの来館者数が2000万人を超え、2000万人目の利用者に記念品を授与した。 ・児童資料部門マスコットキャラクター「ヨムヨム」の着ぐるみをイベントに活用した。 ・５月の図書館振興の月に合わせ、「つながる・ひろがる・おかやまのとしょかん」展示を行い、来館者やＷｅｂ上からいただいたコメントを集めて掲示した。 [課題] ・他機関や学校等と連携し、普段図書館を利用しない層が参加するイベントの企画・実施により、未利用者の来館を促す必要がある。 ・「ヨムヨム」の着ぐるみを活用し、多くの方に愛着を持ってもらい幅広い年代の方々が楽しめる館内イベントを企画する必要がある。
⑥県民との協働の推進 ボランティアの受入れ及び研修による資質能力向上を図ります。また、学習成果を発揮する場やボランティア同士の交流機会を提供します。読書グループや読書ボランティアの調査結果等を基に、地域における読書ボランティアの養成に際して、講師紹介や助言等による支援を行います。	[主な成果] ・当館の新規登録ボランティアを対象に養成講座を実施したほか、市町村立図書館ボランティアを対象とするスキルアップ講座を開催した。アンケート結果は、満足度・活用度ともに昨年度と同様に好評であった。また、市町村立図書館からの要請を受け講師の紹介や助言を行った。 ・講座の後に情報交換の時間を設け、ボランティア同士の交流の場を設けた。 ・「全国読書グループ調査」及び「岡山県内読書グループ・読書関係ボランティア調査」を実施し、結果を公表した。 ・ノートルダム清心女子大学司書課程“おはなし隊”と連携して、年に２回、季節に合わせたおはなし会及びワークショップを開催した。

	・「おはなしのへや」を活用し、山陽学園短期大学の学生によるおはなし会練習会（一般公開）を試行実施した。学生の発表の場を提供するとともに、実践的な学びの機会とした。 ・郷土資料の活用を促進し地域に役立つ活動につなげるため学生ボランティアである「郷土資料学生サポーター」を募集、受入れ、資料の整備やイベントのサポート等を行った。 [課題] ・定員数が限られるボランティア対象の講座に県立だけでない地域のボランティアが参加できる方法の検討が必要であると同時に各地域の図書館がボランティア講座を開けるよう支援が必要である。 ・「おはなしのへや」を読み聞かせやおはなし会の実践・練習の場として、子どもの読書活動に関わる学校・団体等に広く活用してもらえるよう、広報を行い受け入れ体制を整える必要がある。
⑦郷土資料の寄贈受入及び郷土情報募集事業の推進 県民の参加意識を高めることによって、取組を積極的に進め、価値ある郷土資料・情報の提供につなげます。	[主な成果] ・県民等から郷土資料３，１０８点の寄贈を受け入れた。 ・郷土情報募集事業では、５校から校歌の提供を受けた。 [課題] ・市町村や県民の協力も得ながら、郷土資料の網羅的収集の継続が必要である。

評価

入館者数、個人貸出冊数ともに前年度より減少し、長期的に見ても１０年ほど前から減少傾向が続いているが、来館者アンケートでは前年度に引き続き高い満足度を得た。 このほか、インターネット予約貸出比率は、その利便性が浸透してきたこともあり、目標を上回った。また、Ｘフォロワー数も目標を上回って増加している。	**４** ＜達成レベル＞ ５：目標を大きく上回る ４：目標を上回る ３：概ね目標水準 ２：目標を下回る １：目標を大きく下回る

（２）県域の中枢となる図書館

基本指標	令和７年度実績
協力レファレンス件数　平成２８～令和元年度実績平均：１，０５７件	１，３１０件

○県内公共図書館の振興

サービス目標と具体的取組	成果と課題
①県内公共図書館への支援の推進 全県的な図書館サービスの拡充に向け、既存の支援事業に引き続き取り組みます。具体的には、市町村図書館等への協力貸出し、支援用図書の充実、協力レファレンスなどサービス支援を推進していくとともに、日常的な図書館運営に関する様々な相談に対応し、情報交換できる環境を整備します。その一環として、公共図書館協議会や協力担当者会、全自治体への巡回相談を継続して実施し、各館の現状や課題を把握して情報の提供や助言を行います。これにより、「第３次岡山県教育振興基本計画」５・生涯学習環境の整備と文	[主な成果] ・利用マナーに関するトラブルが各図書館で問題となっていることから、県内図書館に呼びかけ「マナーアップキャンペーン」を統一イベントとして実施した。 ・新春図書館福袋2026を県内図書館に呼びかけ「県内図書館共同企画イベント」として実施した。（参加館：36館） ・館長と図書館職員を対象とした会議や研修会を行い職員のスキルアップを行った。（オンライン開催を含む。）また図書館協力ニュースの発行、Ｇｏｏｇｌｅスプレッドシートを活用した「郷土出版情報」の共有、市町村図書館への巡回相談、新たに開始した市町村担当者制度等を通して、情報交換・提供、助言を行った。 ・当館が実施した資料展示を市町村図書館でも実施できるようパッ

化・スポーツの振興に寄与します。	ケージ化し、協力貸出を行った。（3施設から１３件の利用） [課題] ・引き続き、各市町村図書館の域内において図書館サービスの空白に対応するための、情報提供や助言等必要な支援を行う。 ・協力貸出し、支援用図書、協力レファレンス等既存資源の有効活用に努めるとともに、各図書館の実情に沿った支援策を検討していく必要がある。
【指標】県内公共図書館への協力貸出　最終年度に40,000冊以上 **【指標】巡回相談実施延件数 毎年度75件以上**	**【指標】県内公共図書館への協力貸出冊数：** **２３，２３５冊（R６：２５，７４６冊）** **【指標】巡回相談実施延件数：７２件（R６：７４件）**
②図書館に関する調査とその公表の推進 県内公共図書館調査等の定例の取組を推進するとともに、「災害に関連する図書館の取組状況調査」などニーズや重要性を見極めたきめ細かい調査を行い、県内公共図書館のサービス向上等に役立てます。	[主な成果] ・県内公共図書館調査を基に人口規模別に県内公共図書館と全国の図書館のサービス目標を比較した「自治体別指標」を取りまとめ、各館の計画策定や予算要求等に活用された。 ・障害者サービスなどについて調査を行い、結果を提供した。 [課題] ・市町村が館の運営や予算要求等に活用できるよう、これまでの取組を継続しつつ、必要に応じて県内及び全国の状況について情報を提供する必要がある。 ・市町村毎に異なる課題に着目し、個別に解決策を見出すための詳細な分析方法について、検討が必要である。

〇図書館職員の資質能力の向上

サービス目標と具体的取組	成果と課題
③図書館職員研修の充実 研修については、より実践的な内容とし、研修実施後、内容を県内公共図書館等に情報提供し共有できるよう配慮します。また、講師派遣制度の充実とともに、研修を受けた市町村職員自身が講師を務めるよう促し、県全体の図書館職員の資質能力向上を図ります。さらに、研修の機会を確保するためインターネットを利用した遠隔研修を検討します。	[主な成果] ・図書館職員研修では、オンライン開催や事後の動画配信を行うなど、受講しやすい環境を整え、満足度・活用度ともに前年度を上回った。 ・中国・四国地区図書館地区別研修を開催し、多くの参加があった。 ・市町村立図書館などからの要請を受け、研修への講師派遣を６回実施し、参加者から高い満足度を得た。 [課題] ・県内図書館では、非正規雇用が進む中、職員のスキルの維持・向上に必要な研修機会の確保が課題である。 ・オンライン開催や事後の動画配信を行った研修では、来場参加が少なく従来のような県内他館の職員同士の交流や情報交換の機会が減少している。受講者の利便性に配慮しつつ、より活用度の高い実践的な研修を実施できるよう、テーマの精選が必要である。
④岡山県立図書館職員の専門性の向上 県域の公共図書館の支援を行うという広い視野に立ってグループ研究に取り組み、その成果は館内研修等で共有し、日常業務の改善や講師派遣制度に活用します。また、国立国会図書館の遠隔研修の活用など研修形態のあり方を検討していきます。	[主な成果] ・７つのグループを組織し、テーマに沿って研究を進め職員の資質や技術、知識レベルの向上を図った。研究で得られた成果は、年度末の館内職員研修で活動報告を発表し共有した。また、研究した内容は県内公共図書館等への講師派遣事業に生かすことができた。 [課題] ・職員のスキルの維持・向上に必要な研修及び研究グループによる自主研究等の機会及び時間の確保が課題である。

○図書館ネットワークの拡充・強化

サービス目標と具体的取組	成果と課題
⑤県内図書館等とのネットワークの推進 県内公共図書館等既存の参加館と協力しながら安定的なネットワークを維持するとともに、大学図書館等との連携の拡大を図ります。また、「岡山連携中枢都市圏図書館相互利用」などの県域の広域ネットワークの動向を注視していきます。	**[主な成果]** ・県内公共図書館、大学図書館等３７施設に週２回、学校図書館等９８施設（中高併設は集約）に週１回の資料搬送を行った。居住地にかかわらず、希望する資料を受け取れることから、利用者の利便性が向上している。 ・相互貸借システムおよび横断検索システムの更新を実施した。一部ペーパーレス化など業務の見直しを行い効率化を図った。 **[課題]** ・物流コストの高騰も考慮し、より効率的な配送システムを検討していく必要がある。 ・ネットワークの接続ができていない大学図書館に対し、説明や働きかけを行い、拡充を図る必要がある。 ・新相互貸借システムについては、使い勝手等に課題が残っている。
⑥県外図書館等とのネットワークの推進 新しい技術動向に対応しつつ、全国的ネットワークの地域拠点機能を果たし、県外図書館等との協力関係を維持します。	**[主な成果]** ・国立国会図書館のレファレンス協同データベース事業に登録し、累計登録件数は4，１８３件となった。平成２０年度以降１７年連続で国立国会図書館長から感謝状を受けた。 **[課題]** ・県外図書館へ1，５５８冊の相互貸借による貸出しを実施し、全国的ネットワークに大いに貢献している。しかし、業務量および送料等についての負担も大きいため、より効率的な方法を検討する必要がある。

評価

県内公共図書館への協力貸出冊数は目標を下回った。これはインターネット予約をして県立図書館の資料を借りることが浸透してきていることや、市町村図書館の個人貸出冊数も減少したことが要因として考えられる。 巡回相談実施延件数については市町村の図書館等を訪問し、各地域の状況把握に努めるとともに、運営の相談に対応し、概ね目標水準であった。	**2** ＜達成レベル＞ ５：目標を大きく上回る ４：目標を上回る ３：概ね目標水準 ２：目標を下回る １：目標を大きく下回る

（3）調査・研究センターとしての図書館

基本指標	令和７年度実績
レファレンス件数　平成２８～令和元年度実績平均：８６，０９８件	６４，１３０件

○主題別６部門制による調査・研究支援

サービス目標と具体的取組	成果と課題
①レファレンスの充実 主題別６部門制に基づく専門性の高いレファレンスを行い、レファレンスデータベースへ登録するほか、レファレンスツールとしてのブックリスト、調べ方案内（パスファインダー）等の作成・更新に取り組み、県民の調査・研究に役立てます。提供に当たっては、利便性の向上に努めます。	**[主な成果]** ・レファレンスデータベースに１８２件を登録した。 ・各部門のテーマ展示や関係機関との連携展示に合わせて、ブックリストを作成し、ホームページ上で公開した。 ・レファレンスの周知を図るため、利用者への積極的な声かけを行うなど、レファレンス認知度アップ大作戦を実施し、カウンター職員へ尋ねやすい雰囲気作りに努めた。また、過去のレファレンス事例を紹介するパネルの掲示やレファレンスに使用した資料および関連資料の展示を行った。

	・当館ホームページのトップ画面から直接レファレンスサービスページにアクセスできるアイコンを作成し、ホームページからの申込によるレファレンスサービスを実施した。 ・レファレンスサービスの利用者に対して、メール回答の際にアンケートを行い、満足度などを調査した。 [課題] ・レファレンスサービスを具体的にイメージでき、利用につながるよう、引き続き具体的な活用例を示すなどの周知が必要である。
【指標】レファレンス事例の公開件数　毎年度１８０件以上	**【指標】レファレンス事例の公開件数：１８２件** **（R６：１８７件）**
②関係機関と連携した調査・研究支援の充実 利用者と関係専門機関をつなぐレフェラルサービスの充実を図ります。特に、重点収集資料である交通文化資料については、関係機関の協力も得ながら魅力ある企画展示を行ったり、二次資料の作成を進めるなど、岡山県立図書館の特色として今後も情報発信を続けます。	[主な成果] ・利用者の求める情報や資料の提供にあたり、岡山県立記録資料館や岡山大学図書館等の機関を紹介した。 ・各部門において、年間を通じ、関係機関の協力も得ながら、利用者の興味・関心を引く展示等を行った。 ・県交通政策課と連携し、リーフレット等の配付のほか、公共交通に関連する資料の展示を行った。 [課題] ・子どもから大人まで幅広い世代が興味を持つ連携展示の検討が必要である。

〇課題解決支援機能の充実

サービス目標と具体的取組	成果と課題
③ビジネス支援の充実 地域産業を担う方、多様な業種の専門家、創業・起業を考える方、キャリアアップを目指す方、就職を考える方に、豊富な蔵書を基盤にデータベース等のデジタル情報も活用した支援を継続します。また、関係する県庁各部署等との連携をより深め、セミナー等のイベント開催やビジネスに役立つ情報提供を推進します。これらの取組を通して「第３次晴れの国おかやま生き活きプラン」・重点戦略Ⅱ・地域を支える産業の振興に寄与します。	[主な成果] ・関係機関と連携し、創業相談会（おかやまインキュベータ協議会）、高校生ビジネスプラン作成講座（日本政策金融公庫）、創業&フォローアップセミナー（創業者応援団）を開催した。 ・課題解決サービスとして、専門家との連携による共催イベント（分野別ミニ創業塾）を実施した。 ・ビジネス支援サービスのチラシを改訂し、当館を活用して起業につながった利用者からの感想を掲載した。 [課題] ・引き続き、当館の活用により、ビジネスの成功につながった事例を募集するなど、具体的な活用法を効果的に情報発信していくことが必要である。 ・すでに起業している方や就職を考えている方などに向けた、より幅広い支援が必要である。
④身近な課題解決支援の充実 二次資料の作成・配布等によって、利用者自らによる課題解決を促進します。また、主催講座、連携講座、企画展示、連携展示等を通してニーズを踏まえた課題解決支援を行うとともに、積極的な情報発信により、未利用者にも岡山県立図書館を身近な存在として認知してもらえるよう取り組みます。以上の取組を通して「第３次晴れの国おかやま生き活きプラン」・重点戦略Ⅲ・安心で豊かさが実	[主な成果] ・県総合教育センターが主催する教員研修（初任者研修講座（高等学校））第５日、総合的な学習（探究）の時間研修講座）で、当館職員が講師を務めた。 ・高校生よるＳＤＧｓに関する取組を支援する「ＢｅＬｉｖｅ」プロジェクト実行委員会に参加し、「第６回ＢｅＬｉｖｅ×岡山県立図書館コラボイベントを開催した。また、「ＳＤＧｓ・探究活動フォローアップイベント」で当館職員が講師を務めた。 ・「高校生『夢育』PBLフォーラム2025」にブース展示で参加

感できる地域の創造に寄与します。	し、当館のPRを行った。 ・県内の学校・大学からの見学時に、課題解決支援につながるような、図書館の活用方法等を案内した。 ・岡山県青年司法書士協議会と連携し、専門職による無料相談会&セミナーを開催した。 ・関係機関と連携し、司法書士による無料相談会（岡山県青年司法書士協議会）と、空き家対策相談会（（一社）岡山住まいと暮らしの相談センター）を定期開催した。 ・遺言・相続と空き家対策に関する調べ方ガイドを作成し、相談会参加者に配布するとともに、ホームページで公開した。 ・当館を会場とした県新規採用職員の研修の際に、当館の活用方法の説明や館内見学を行った。また、県職員から新規採用職員に向けたおすすめ本を募集し、まとめたものを新規採用職員研修で配布するとともに、県職員向けのポータルサイトでも公開した。 ・県職員向けの研修会で研修内容に応じたブックリストを配付し、併せて県職員向け県立図書館ポータルサイトに業務に役立つ本をまとめたブックリストを掲載して利用を促進した。 ・企画展示や連携展示、主催講座などで、関連分野のブックリストを配布するとともに、ホームページで公開、また講座内で現物資料の提供を行うなど、課題解決に役立つ資料情報の提供を行った。 **[課題]** ・利用者が生涯を通して自ら課題解決につながる図書館活用を進められるよう、調査スキルの向上に役立つ講座の開催などによる情報発信が求められる。加えて学校における探究学習・課題解決型学習(PBL)への支援の拡充が課題である。
【指標】ホームページ上で公開したブックリストの作成件数：毎年度150件以上	**【指標】ホームページ上で公開したブックリストの作成件数：１６５件（Ｒ６：１６０件）**

〇児童図書研究室の活用

サービス目標と具体的取組	成果と課題
①新刊児童図書及び児童図書研究書収集の促進 新刊児童図書の全点購入や児童図書研究書の積極的収集を継続し、子ども読書活動推進センターとしての機能の一層の充実を図ります。	**[主な成果]** ・新刊児童図書の全点購入や児童図書研究書の積極的収集を図った。またそれらの資料を活用した研修講座を、市町村立図書館職員、学校図書館職員及びボランティアに実施し、協力貸出や児童図書研究だよりの発行を通して、子どもの読書に関わる方へ情報提供を行った。 ・子どもの読書推進に取り組む団体やグループが活動の場として活用できるよう、児童図書研究室の貸出を試行した。 **[課題]** ・限られた資料費の中で、新刊児童図書の全点購入や児童図書研究書の積極的収集を継続し、子ども読書活動推進センター機能を維持する必要がある。 ・児童図書研究室の資料や機能を、子どもの読書活動に関わる方々に広く活用してもらうため、利用方法の周知や活用事例の紹介を行う必要がある。

評価

レファレンスサービスの件数は、昨年度の７０，１０２件と比較し、減少した。また、レファレンスデータベース登録数及び、ホームページ上で公開したブックリストの作成件数は、目標を達成した。	３ ＜達成レベル＞ ５：目標を大きく上回る ４：目標を上回る ３：概ね目標水準 ２：目標を下回る １：目標を大きく下回る

（４）デジタルネットワークに対応する図書館

○デジタル岡山大百科の充実

サービス目標と具体的取組	成果と課題
①郷土情報ネットワークの充実と利用促進 郷土情報募集事業や関係機関との連携強化等を通して、価値ある郷土情報の蓄積に努め、活用方法を広報します。デジタル化に当たってはメディア工房支援ボランティアと協働で進めます。デジタルコンテンツの活用に当たっては、広く一般の方に利用されるようオープンデータ化を検討します。	**[主な成果]** ・当館のみが所蔵する郷土資料をデジタル化し、デジタル岡山大百科に登録した。また、著作権の関係上、当館では公開できない資料などは国立国会図書館に送付し、国立国会図書館のデジタルコレクションにて公開している。 **[課題]** ・引き続き関係機関と連携し、デジタルコンテンツの充実を図る必要がある。 ・デジタル岡山大百科を改善し、検索や閲覧、活用をしやすくする必要がある。
②レファレンスデータベースの充実 県内公共図書館等と連携し、レファレンス事例の一層の充実を図ります。また、効率的な運営を目指し、図書館業務システムのレファレンス機能や国立国会図書館のレファレンス協同データベースの活用方法を検討します。	**[主な成果]** ・レファレンスデータベースに１８２件を登録した。（再掲） ・県立図書館フェスタの期間に合わせて、過去のレファレンス事例を紹介するパネル展示を行ってレファレンスについての周知を図り、レファレンスの認知度が向上した。 **[課題]** ・引き続きレファレンス事例の充実を図るとともに、登録事例を活用し、レファレンスの認知度を向上させる必要がある。 ・レファレンスデータベースシステムを改善し、検索や閲覧、活用をしやすくする必要がある。

○デジタルネットワークの活用

サービス目標と具体的取組	成果と課題
③外部から導入して提供するデータベースサービス等の利用促進 直接来館することによってはじめて利用できるデータベースサービスについて講座などを利用して周知し、利用促進を図ります。	**[主な成果]** ・外部講師を招いて、音楽配信サービス「ナクソス・ミュージック・ライブラリー」を活用する講座を一般向けに実施した。 **[課題]** ・データベース利用促進のための体験会や活用講座を実施しているが、データベースの利便性、有用性を更に広報して利用の拡大を図る必要がある。
【指標】外部から導入して提供するデータベースサービス等の利用者数　毎年度１，８００人以上	**【指標】外部から導入して提供するデータベースサービス等の利用者数：９０８人（R６：１，１９０人）**
④サピエ図書館等の活用の推進 サピエ図書館の活用を一層進めるとも	**[主な成果]** ・サピエ図書館から様々な音声データをダウンロードし、録音図

に、県内公共図書館へノウハウを提供しながら、全県域での障害者サービスを充実させます。	書（デイジー図書等）の貸出しを行った。希望する利用者には、記録メディアや携帯版録音図書再生機器とともに貸し出した。 ・障害者サービスに関し、県内公共図書館、関係機関等の問い合わせに対して、助言や情報提供を行った。 [課題] ・サピエ図書館の活用が一層進むよう関係機関等と連携し、サービスの周知を図る必要がある。
【指標】サピエ図書館データのダウンロード点数：最終年度に５，０００点以上	**【指標】サピエ図書館データのダウンロード点数：** **５，３０２点（R６：５，１１０点）**
⑤電子書籍サービスの導入 電子書籍サービスの導入については、公共図書館向けコンテンツ数の不足や費用において課題はあるものの、情報端末の普及や教育の情報化、読書バリアフリー法の施行、さらには新型コロナ等感染症の流行など外部環境が大きく変化してきており、導入に向けて収集基準の見直しなど具体的方策を検討します。	[主な成果] ・電子書籍サービスに関して国内の導入状況や近隣各県の導入後の利用状況等について情報収集を行った。 ・電子書籍サービスの長所として、あらゆる人が時間や場所を選ばず読書に親しめることから、令和8年度に読書バリアフリー推進事業の一つとして導入予定である。 [課題] ・コンテンツ数の不足や１コンテンツあたりの単価が紙資料と比べ高いことがなどが課題である。

評価

外部から導入して提供するデータベースサービス等の利用者数は、近年の来館者数の減少により目標を下回ったが、サピエ図書館データのダウンロード点数については、目標を上回った。	２ ＜達成レベル＞ ５：目標を大きく上回る ４：目標を上回る ３：概ね目標水準 ２：目標を下回る １：目標を大きく下回る

（５）資料保存センターとしての図書館

基本指標	令和７年度実績
新刊図書の購入冊数　平成２８～令和元年度実績平均（１億円に割り戻し）：２９，３６３冊	１９，７３０冊

○資料の収集

サービス目標と具体的取組	成果と課題
①新刊図書の効率的な収集 県民及び県内図書館からの高度化、多様化する資料要求に応えられるように、新刊図書の効果的な収集と、効率的な予算執行に努めます。また、引き続き、資料購入費の確保に努めるとともに、雑誌スポンサー制度やふるさと納税制度を活用し、資料収集に活かします。	[主な成果] ・限られた予算の中で、資料収集基準に基づき、調査研究センターとしての機能維持を念頭に、効率的な予算執行に努めた。 [課題] ・引き続き、利用者ニーズを踏まえながら、市町村立図書館での購入が難しい資料など、当館として所蔵すべき資料の収集に努める必要がある。 ・資料購入費確保のため、雑誌スポンサーやふるさと納税の更なる周知に努める必要がある。
②郷土資料の収集の促進 郷土資料の収集については、量的充実と合	[主な成果] ・現在発行されている郷土資料については、県内市町村に寄贈協

わせ、未所蔵資料の遡及収集に積極的に取り組みます。購入や寄贈のほかに、資料の必要性に応じて、他館所蔵資料の複製やデジタル媒体の印刷製本等の柔軟な方法で収集します。	力を求めるとともに、雑誌や新聞記事等の出版情報を基に積極的に収集した。 ・古書については、古書目録や古本市、インターネット等の情報を得てデジタル化による公開も可能な資料的価値の高い選定に努めた。 ・行政資料を中心に、デジタルデータでしか入手できないものについては、プリントアウト・製本して資料化した。 [課題] ・郷土資料の網羅的収集を継続していくことが必要である。
【指標】自館で複製した郷土資料受入れ数：毎年度50点以上	**【指標】自館で複製した郷土資料受入れ数：２０４点（Ｒ６：８４点）**

○資料の保存

サービス目標と具体的取組	成果と課題
③県域の資料保存センター機能の充実 県域の資料保存センターとしての機能を果たすため、受入資料については原則として永年保存します。また、県内公共図書館等の移管資料の受入れを行うとともに、寄贈資料の円滑な受入れ、保存に努めます。書庫整備については長期的視野に立ち、計画的に取り組みます。	[主な成果] ・寄贈・移管資料として、５，８０３冊（うち市町村立図書館等７３８冊）を受け入れた。 [課題] ・引き続き、寄贈・移管された資料を効率的かつ迅速に受け入れるため、書庫や保管スペースを確保しておく必要がある。
④長期保存対策の推進 劣化が著しく代替資料がない郷土資料のデジタル化を、メディア工房支援ボランティアと連携しながら優先的に行います。また、再生機器の旧式化に伴い、永続的活用が困難と見込まれるカセットテープやVHSなどの郷土資料の媒体変換も優先的に行います。	[主な成果] ・長期保存の優先度合いの高い資料について、著作権保護期間が過ぎ、利用頻度の高い資料を中心にデジタル化するとともに、デジタル岡山大百科へ登録し、利用に供した。 [課題] ・貴重な資料の長期保存と利用促進の観点から、引き続き、計画的にデジタル化を進める必要がある。
【指標】デジタル化した郷土資料点数：毎年度25点	**【指標】デジタル化した郷土資料点数：２５点（Ｒ６：２５点）**

評価

限られた資料購入費で最大限の効果がでるよう質の高い資料選定を行い県立図書館の役割を踏まえた資料収集と効率的な予算執行を行った。県庁各課や市町村に刊行物の提供等を呼びかけたことにより、自館で複製した郷土資料受入れ数は目標を大きく上回った。さらに、デジタル化した郷土資料点数も目標を達成した。	**４** ＜達成レベル＞ ５：目標を大きく上回る ４：目標を上回る ３：概ね目標水準 ２：目標を下回る １：目標を大きく下回る

＜重点プログラム＞

（1）子ども読書プログラム

○子ども読書活動推進センター機能の充実

サービス目標と具体的取組	成果と課題
①子どもの読書に関する調査・研究の支援の推進 新刊児童図書の全点購入や児童図書研究書の積極的収集を継続し、第４次岡山県子ども読書活動推進計画に基づき子ども読書活動推進センター機能の一層の充実を図ります。また、子どもの読書に関わる方や関係機関に対して、新刊児童図書、児童サービスの実態や取組等に関する様々な情報を広報紙やホームページ等で提供します。	[主な成果] ・新刊児童図書の全点購入や児童図書研究書の購入を継続し、充実した児童図書研究環境を提供することができた。 ・児童図書研究室内で中央教科書センター丸の内分館を運営し、通年、現行教科書の展示を行った。 [課題] ・限られた資料費の中で、新刊児童図書の全点購入や児童図書研究書の積極的収集を継続し、子ども読書活動推進センター機能を維持する必要がある。
②子どもの読書に関わる研修・普及啓発活動の推進 研修の形態は、講義のみならず、アンケートなどをもとにボランティアの声を反映させた事例発表、連絡会、交流会等の多様な形態を取り、その内容は実践的なものとします。また、読書ボランティア団体等の取り組みを引き続き支援します。	[主な成果] ・市町村立図書館職員、学校図書館職員及びボランティアを対象として、タイムリーかつ参加者ニーズを踏まえたテーマにより各種研修会を開催するとともに、公共図書館等主催の研修講座に講師を派遣するなど、図書館関係者の資質向上に取り組んだ。 ・県子どもの読書活動推進連絡会を開催し、図書館、学校、ボランティア等関係者が連携・協働の下、種々の取組を推進する機会とした。 ・講師の意向や著作権の問題を考慮しつつ、可能な限りオンライン開催や事後の動画配信を行うなどし、研修機会の確保に努めた。 [課題] ・ボランティア間の交流を促進し、研修効果を高める工夫が必要である。
③子どもへのサービスの充実と郷土岡山を大切にする心の育成 資料の充実を図るとともに、読み聞かせ、ストーリーテリング等の行事を、児童サービス支援ボランティアと連携しながら行います。保護者の読書相談にも対応します。学校図書館と連携し、豊富な郷土情報に関するデジタルコンテンツの有効利用など、岡山県立図書館の魅力や活用方法を周知するとともに、ティーンズコーナーの運営や図書館見学を実施することにより、中高生の利用促進と不読率の解消を目指します。また、図書館の利用に特別な配慮を必要とする子どもの読書活動を支援します。さらに、子どもが郷土岡山を大切に思い、世界に視野を広げ、夢や目標を持ち、よりよい社会づくりに参画する心や態度を育成するために、多種多様な資料に触れる機会として企画展示等のサービスを充実させます。	[主な成果] ・ティーンズコーナーにおいて、高等学校等１８校の参加による企画展示や「で一れ一ＢＯＯＫＳ」等学校図書館活動の取組を紹介した。 ・「図書委員会交流会×県立図書館2025本でお悩み相談よむくすり」を実施し、高校生ならではの悩みに応える本を、館内から選んで薦める活動を行った。成果物はティーンズコーナーにて展示を行った。 ・「岡山県立としょかんクイズラリー　ヨムヨム探検隊」、「図書館ｄｅ七夕☆短冊に願いをこめて2025」など、楽しんで図書館を利用し、参加できるイベントを実施した。 ・毎週日曜日におはなしのへやで「おかやまクイズ」を行い、子どもたちが郷土岡山について楽しく学べる機会を提供した。 ・児童資料コーナーの「おはなしのへや」を開放し、来館者（親子）が読み聞かせを楽しめる場を提供した。 ・「保護者のための読み聞かせ講座」及び「保護者のための読み聞かせ相談会」を実施し、家庭での読み聞かせのコツや絵本の選び方について、保護者への情報提供を行った。 ・郷土資料部門において、子ども向けの郷土資料を展示した「子どもと学ぶおかやま」を新設し、郷土岡山に関する資料の活用を促した。 ・「ヨムヨム郷土かるた大会 かるたで知ろう！わたしたちのおか

	やま」を開催し、子どもたちが岡山について楽しく学ぶ機会を提供した。 ［課題］ ・小学校高学年から中高生にかけての読書離れに対応するため、児童サービスからティーンズサービスへの円滑な接続を図る必要がある。発達段階や興味・関心に応じた資料や企画、情報発信を充実させ、成長に合わせて継続的に図書館や読書に親しめる環境を整える必要がある。 ・中高校生に対しての読書支援は、学校と協力しながら、学校を通じての支援や非来館型の支援を検討する必要がある。 ・読書バリアフリーの推進のため、特別支援学校への障害者サービスのさらなる周知を図っていく必要がある。
【指標】おはなし会参加人数（団体見学時の人数を含む。）：最終年度に 6,500 人以上	**【指標】おはなし会参加人数（団体見学時の人数を含む。）６，８１４人（Ｒ６：５，６８２人）**

〇学校図書館への支援

サービス目標と具体的取組	成果と課題
④学校図書館への支援の推進 学校図書館担当職員（学校司書・司書教諭）等を対象とした専門的な研修を開催するとともに、こうした機会を通して、岡山県立図書館が行っている学校図書館支援について引き続き周知を図ります。また、学校等で開催される研修に、必要に応じて図書館職員を派遣します。	［主な成果］ ・学校図書館への協力貸出し（当館所蔵資料の貸出し）、学校図書館支援用図書貸出し（学校セット貸出し）等により学校図書館の支援を行った。 ・学校図書館（搬送実施校）向けのシステム更新を実施した。一部業務の効率化と利便性の向上を図った。 ・学校図書館職員を対象として、タイムリーかつ参加者ニーズを踏まえたテーマにより各種研修会を開催するとともに、要請を受け講師を派遣し、資質向上を図った。 ・特別支援学校を訪問した際に学校図書館の活用についての相談を受け、その後、定期的な利用があった。 ［課題］ ・高等学校では、多くの資料を活用している学校がある一方で、全く利用のない学校もあるため、さらにきめ細かく利用促進を働きかける必要がある。 ・特別支援学校への支援を重点的に行う必要がある。 ・市町村立学校に対しては、市町村立図書館との役割分担を図りながら、支援を進める必要がある。
【指標】学校図書館への協力貸出冊数：毎年度 35,000冊以上	**【指標】学校図書館への協力貸出冊数：２３，０３３冊（Ｒ６：２３，２３４冊）**
⑤学校図書館との協力体制の構築 岡山県立図書館は子ども読書活動推進センターとして、学校図書館協議会等と連携協力しながら、主体的・対話的で深い学びや「夢育」等が効果的に実施できるよう、学校図書館への支援を充実していきます。また、公共図書館と地域の学校図書館等とのネットワークの構築についても情報収集を行い、市町村に対し情報提供に努めます。	［主な成果］ ・学校図書館との連携・協力を図るため、引き続き学校図書館関連組織との連携や情報提供に努めた。 ・岡山県高等学校教育研究会学校図書館部会司書部会研修会第１回・第２回合同研修会を共同主催し、当館が行う学校向け事業の説明や意見交換会等を行った。 ・初めて学校図書館と当館との懇談会を実施した。 ・巡回相談を通じて、地域の公共図書館と学校図書館等との間のネットワークの状況を把握するとともに、情報提供を行った。

	［課題］ ・県立および市町村立図書館は学校教育を援助する立場にあり、学校図書館において、岡山県が推進する「夢育」でのＰＢＬや探究学習が効果的に実施できるよう、地域の公共図書館・学校・教育委員会等がより緊密に連携協力し、学校図書館の利用促進に努める必要がある。

評価

新刊児童図書の全点購入など調査研究のための環境整備とともに、読み聞かせ等子どもへのサービスの充実を図った。 学校図書館への協力貸出冊数について目標を下回っており、学校や教育委員会等と連携した取組が必要である。	2 ＜達成レベル＞ ５：目標を大きく上回る ４：目標を上回る ３：概ね目標水準 ２：目標を下回る １：目標を大きく下回る

（２）図書館資源の活用促進プログラム

○図書館資源のアクセシビリティ向上

サービス目標と具体的取組	成果と課題
①電子書籍サービスの導入（再掲） 電子書籍サービスの導入については、公共図書館向けコンテンツ数の不足や費用において課題はあるものの、情報端末の普及や教育の情報化、読書バリアフリー法の施行、さらには新型コロナ等感染症対策など外部環境が大きく変化してきており、導入に向けて収集基準の見直しなど具体的方策を検討します。	**［主な成果］　（再掲）** ・電子書籍サービスに関して国内の導入状況や近隣各県の導入後の利用状況等について情報収集を行った。 ・電子書籍サービスの長所として、あらゆる人が時間や場所を選ばず読書に親しめることから、令和8年度に読書バリアフリー推進事業の一つとして導入予定である。 **［課題］　（再掲）** ・コンテンツ数の不足や１コンテンツあたりの単価が紙資料と比べ高いことなどが課題である。
②ユニバーサルデザインの視点に立ったサービスの推進（再掲） 誰にでも使いやすいように蔵書検索システムの機能の充実を図ります。またウェブアクセシビリティ規格に配慮し、ウェブコンテンツの更なる改善を進めます。 障害のある方の読書環境の整備を目指した「読書バリアフリー法」の理念を踏まえ、対面朗読のオンライン化について検討します。また、障害者サービス等において県内公共図書館や関係機関との連携の一層の強化を進め、全県的に効果的なサービス展開を図ります。 多文化サービスについては、利用者ニーズの把握に努め、利用を促進します。	［主な成果］　（再掲） ・新たに公開した、オカリブサーチとデジタル岡山大百科では、直感的で誰でも使いやすい画面構成を意識したシステムを構築した。 ・音声読み上げを利用した際に、目的のページへたどり着きやすくするために ホームページの構成を一部変更した。 ・「岡山県読書バリアフリー計画（第一期）」を踏まえ、全県的なサービス展開を目指し、県内の関係機関と情報交換を行った。また、同計画が最終年度となることから第二期計画策定に向けて、関係部署と協議を行った。 ・当館所蔵資料に加え、録音図書などを提供するネットワーク「サピエ図書館」を活用した資料提供を行った。 ・オンラインでの対面朗読サービスを継続実施した。 ・子ども向けのバリアフリー資料を集めた「りんごの棚」を児童資料コーナーに設置した。 ・教員が見学の下見に来館した機会等を活用し、障害者サービスや当館の利用方法の周知に努めた。 ・通常のおはなし会に加え、おはなしまつりなど読み聞かせや工作、手遊び等を行ない、読書に親しむきっかけを提供したり、「英語でおはなし会」、「世界のことばで Let’s Read!　－英語・中国語・韓国語であそぼう！」を実施し、子どもたちが多言語資料や多様な文化に触れるきっかけを提供した。 ［課題］

	・デジタル技術の導入など、誰にでも使いやすい利用環境の改善とともに、各種サービスを有効に活用できるよう周知に努める。 ・「Books on Japan」のコーナーを設置しているが、関係機関と連携の強化、多文化サービスを必要とする層の具体的ニーズの把握、必要としている人への情報を届ける方法の検討が必要である。 ・りんごの棚を、特別な支援を必要とする子どもだけでなく、すべての子どもが本と出会える場として位置づけ、資料の充実と周知を図る必要がある。あわせて、特別支援学校や関係機関との連携を進め、読書環境の充実につなげていく必要がある。
【指標】障害者向け資料貸出冊数最終年度に6,000冊以上	**【指標】障害者向け資料貸出冊数：５，７３１冊** **（Ｒ６：５，６２０冊）**
③郷土情報ネットワークの充実と利用促進（再掲） 郷土情報募集事業や関係機関との連携強化等を通して、価値ある郷土情報の蓄積に努め、活用方法を広報します。デジタル化に当たってはメディア工房支援ボランティアと協働で進めます。デジタルコンテンツの活用に当たっては、広く一般の方に利用されるようオープンデータ化を検討します。	**[主な成果]（再掲）** ・当館のみが所蔵する郷土資料をデジタル化し、デジタル岡山大百科に登録した。また、著作権の関係上当館では公開できない資料などは国立国会図書館に送付し、国立国会図書館のデジタルコレクションにて公開している。 **[課題]（再掲）** ・引き続き関係機関と連携をし、デジタルコンテンツの充実を図る必要がある。 ・デジタル岡山大百科を改善し、検索や閲覧、活用をしやすくする必要がある。
【指標】デジタル化した郷土資料点数：毎年度25点	**【指標】デジタル化した郷土資料点数（再掲）：２５点** **（Ｒ６：２５点）**

〇地域課題の解決に役立つ資料・情報の提供

サービス目標と具体的取組	成果と課題
④防災・減災に役立つ資料の収集保存と情報発信 外部機関とも広く連携し、県民から寄せられた県内災害の記録を収集し「デジタル岡山大百科」を活用した災害記録のアーカイブを進めます。また、県内自治体によるハザードマップ等の情報も広く収集し、併せて県民に提供していきます。防災・減災に役立つ資料の情報発信を積極的に進めていきます。	**[主な成果]** ・県内各地の災害記録、ハザードマップ、災害からの復興の歩みなど防災、減災につながる郷土資料を継続収集した。 ・県危機管理課と連携して、防災に対する理解を深めるため、チラシ・リーフレット等の配布のほか、関連図書の展示を行った。 **[課題]** ・新たに改訂されたハザードマップなど、県内各地の災害、防災関連資料の刊行情報について、作成状況を把握し、収集を行う必要がある。
⑤身近な課題解決支援の充実 実用書から専門書までの幅広く豊富な蔵書やデータベースを活用して、専門的な知識と経験を備えた職員によるレファレンスを行い、関係機関とも連携しながら、健康医療や子育て、行政支援など、利用者の身近な課題の解決を支援し、県民の暮らしや仕事に一層役立つ図書館となるよう取り組みます。また、こうした図書館機能の情報発信を積極的に行い、多くの県民に利用していただけるよう努めます。	**[主な成果]** ・家庭教育に関する書籍を並べた書棚を整理し、書籍とともに、館内の子育て本マップや関係機関のパンフレット等を設置することで、子育て支援に関する情報提供を行った。 ・「高校生『夢育』ＰＢＬフォーラム2025」にブース展示で参加し、当館のＰＲを行った。（再掲） ・岡山県職員向けの研修会で研修内容に応じたブックリストを配付し、併せて県職員向け県立図書館活用ポータルサイトに、業務に役立つ本をまとめたブックリストを掲載して利用を促進した。（再掲） ・国立がん研究センターから寄贈される『がん情報ギフト』のコ

	ーナーをリニューアルし、場所をブラウジングコーナーに移動した。 ・健康・医療情報のブックリストコーナーをリニューアルし、内科や小児科などに分類して、ブックリストを作成・配布した。 [課題] ・課題解決支援サービスの情報発信を強化し、図書館未利用者層を含め、多くの県民に役立つサービスとして周知していくことが必要である。

評価

障害者向け資料貸出冊数は目標を下回ったものの、近年、徐々に利用が増えている。利用促進に向け、障害者サービスのさらなる周知が必要である。また、デジタル化した郷土資料点数は目標を達成した。	3 ＜達成レベル＞ ５：目標を大きく上回る ４：目標を上回る ３：概ね目標水準 ２：目標を下回る １：目標を大きく下回る